

2012

広報

おばま 9



《表紙》

小浜西組町並み協議会、若狭青年会議所、地域などが連携して、三丁町(香取・飛鳥区)で「町家deフェスタ」が開催されました。町家を活用した三味線体験やレトロな生活用品の展示が行われたほか、昔ながらの縁日が再現され、大勢の人でにぎわいました。

(7月29日)

【特集】松崎市政2期目がスタート



小浜、笑顔あふれるまちに

松崎市政 2期目がスタート

任期満了に伴う小浜市長選挙は、7月15日に告示され、無所属で現職の松崎晃治氏（54）が無投票で再選を果たしました。

8月6日、午前9時に初登庁した松崎市長は、玄関前に集まった大勢の市職員に拍手で出迎えられ、花束を受け取り、2期目のスタートを切りました。

松崎市長、2期目の抱負を語る

「まずは当選おめでとうございませう。無投票で当選された、今のお気持ちを聞かせください。」

松崎 再び当選させていただくことができ、身の引き締まる思いです。立候補に際して、多くの市民の皆さんから推薦を受けたことで、今後のまちづくり、に、全力で取り組むことができると考えています。

無投票当選という結果

は、市民と行政の協働により、地域力を結集する「オーラル小浜体制」を掲げるわたしとしては、選挙戦によるしこりが残らないという点で、プラスに捉えたいと思います。

4年間を振り返って…

1期4年間を振り返って、特に成果が大きかった点をお聞かせください。

松崎 「財政基盤が

確立しなければ何もできない」という思いから、行政の簡素化・効率化を中心とした、財政の健全化に全力を挙げて取り組んできた4年間でした。その成果は、実質単年度収支の黒字化や財政調整基金の積み増しという形で現れています。また、「夢トーク」と題して、各地区の皆さんと直接語る場を設けることで、市民の

ニーズを的確に把握することに努力してきました。ほかにも、官民一体となって観光に力を入れていくために、第3セクターの「おばま観光局」を立ち上げるとともに、舞鶴若狭自動車道小浜インターチェンジの近くに、道の駅「若狭おばま」を整備し、小浜の新たな玄関口として、地域の魅力あふれる情報を、観光客に発信しています。懸案の企業誘致についても、着実に成果を残せたと思っています。

小浜市の課題

「今、小浜市の課題はどのようなものがあるのでしょうか。」

松崎 原子力防災を含めた地域防災計画の策定や防災行政無線の整備、小学校校舎の耐震化などがあります。

また、伝統文化などの地域資源をどう活用していくかや、つばき回廊商業棟跡

地の活用方法、さらには「おばま観光局」の運営基盤をしっかりと確立していくことも課題です。

平成26年度には、舞鶴若狭自動車道が小浜インターチェンジから敦賀ジャンクションまでつながり、全線開通を迎えます。小浜が通過点にならないよう、これまで以上に観光に力を入れ、観光客を呼び込む方策や道路整備を進める必要があると感じています。雇用の拡大や子育て支援の拡充など、人口維持・増加を図ることも重要であり、これからのまちづくりについて待ったなしの課題が山積んでいます。

課題解決に向けて

「このような課題解決に向けて、どのようにお考えなのでしょうか。」

松崎 まずは、安全・安心な暮らしの実現を目指し、地域防災計画の策定と、防災行政無線を着実に整備し

課題と施策に挑む



松崎晃治（まつざきこうじ）

昭和33年生まれの54歳。若狭高校、東京学芸大学・大谷大学を経て、福井県教職員として小中学校の教壇に立つ。その後鳴門教育大学大学院に入学。修了後、福井県教育研究所、若狭教育事務所勤務。

平成6年に職を辞し、同7年の県議会議員選挙で初当選。同17年には第87代福井県議会議長に就任するなど、13年間にわたって県政のために尽力。

その後、平成20年に小浜市長選に立候補し、当選。1期4年を務める。小浜生玉在住。



会社の社長のように、いかにサービスを提供するかを考えながら、仕事をしてほしい

一 期目は、残された課題を一つ一つ着実に取り組んできました。例えば、つばき回廊商業棟の問題。また、日本電産については、7月30日に無事起工式を迎えることができました。さらに、小浜小学校を移転させ、小浜ロジックを解体しました。「スクラップアンドビルド」という言葉がありますが、壊したら新たな使い方を考えていかなければなりません。

今 回、選挙に挑戦するに当たって、市民の皆さんに公約を配布させていただきました。まず、一番最初に挙げさせていたのは、安全・安心ということ。これが4年前と大きく変わったところです。市民の皆さんに安心感を持ってもらえるようまちづくりを進めていかなければなりません。『自助』『共助』『公助』の中では、『自助』が最も重要です。『自助』をしていただくために、地域防災計画の策定が

必要です。また、防災行政無線を各家庭に配備することが決まりました。今後は、第2段として屋外拡声器を整備するために、できるだけ早く予算化をしなければなりません。小学校の耐震化はだいぶ進んできましたが、県内では下から2番目。早く実行していかなければなりません。

今 地域に横たわっている問題として26年問題があります。26年問題というのは、舞鶴若狭自動車道の全通。今後環状ルートができる、走る車の台数は増えると思われませんが、その際、何割の車が小浜インターチェンジに下りてくるかが鍵です。下りてもらうためには、町に魅力がないといけません。小浜でなければ食べられない、小浜でなければ体験できない、そういったものを開発していかなければなりません。危機感を持って臨んでいただきたい。

また、町の中の整備も必要です。西組も手がつき、徐々に町並みも整ってきました。町中に入って、歩いて楽しんでもらえるようなまちづくりを考えていかなければなりません。

サ ラリーマンというのは、組織の中の駒と



市長訓辞（8月6日・市役所）

「オール小浜体制」でまちづくりをしたい

たいと考えています。特に、東京電力福島第一原発事故を受けた原子力防災については、市民の安全・安心を第一に考えていきます。防災行政無線については、各家庭に端末を1台ずつ整備します。合わせて、屋外拡声器を市内全域に整備するための、財源確保にも努めます。

小学校の耐震化は、この2期目の期間中に100%となるよう取り組んでいきます。

また、舞鶴若狭自動車道が全線開通することを「チャンス」と捉え、観光に力を入れたまちづくりを進めたいと考えています。豊かな自然や歴史、食文化など、小浜市の優れた地域資源を最大限活用し、近畿・関西圏を始め、北陸や中京方面からも多くの観光客に小浜へお越しただけるようPRしていきます。また、西組の重要伝統的建造物群保存地区など町中の整備にも取り組んでいきたいと考えています。

笑顔あふれるまちに
—今後、市長が目指しているまちづくりの方向性をお聞かせください。

松崎 市民・団体・事業者・行政が一体となって、「オール小浜体制」で協働のまちづくりを進めていきたいと考えています。わたしは、今後も無駄を省いた効率的な行財政運営で、コトコトと、着実に事業を進めていきます。これから大型事業も控えています。国の補助事業を活用し、起債を可能な限り抑え、市の財政に無理がかからないよう、慎重に進めていくつもりです。小浜がより一層笑顔あふれるまちになるよう努力して参りますので、皆さんのさらなるご協力をお願いします。

松崎市長が挑む

5つの公約の主な内容

- 1 安全・安心な暮らし**
 - 原子力防災計画を含めた地域防災計画の策定
 - 防災行政無線や避難道路の整備など、安全・安心して暮らせる環境基盤の整備
 - 児童を地震災害から守る、小学校の耐震補強工事
- 2 地域・人づくり**
 - 伝統文化の保護や地域資源の活用による地域活性化
 - 貴重な文化的遺産（旭座など）の有効活用検討による小浜らしい魅力あるまちづくり推進
 - 住民主体の自主的な地域づくり活動支援による協働のまちづくり推進
- 3 魅力ある産業・観光**
 - 雇用の拡大のための地元企業支援や企業誘致
 - 地域資源を活かした誘客の促進のための観光プログラム策定
 - 農林水産物などの地域ブランド化の推進のための6次産業化や農工商連携の加速化
- 4 賑わいの創出**
 - 小浜縦貫線の拡幅や西津橋・大手橋の架け替えなど社会基盤の整備
 - 重伝建地区の「目に見える景観整備」と「まち歩き空間整備」のための町並み整備促進
 - 舞鶴若狭自動車道の全線開通に向けた市内全域への誘導対策
- 5 効率重視の行財政改革**
 - 無駄を省き、効率的な行財政運営に向けた事務事業の外部委託化などの推進